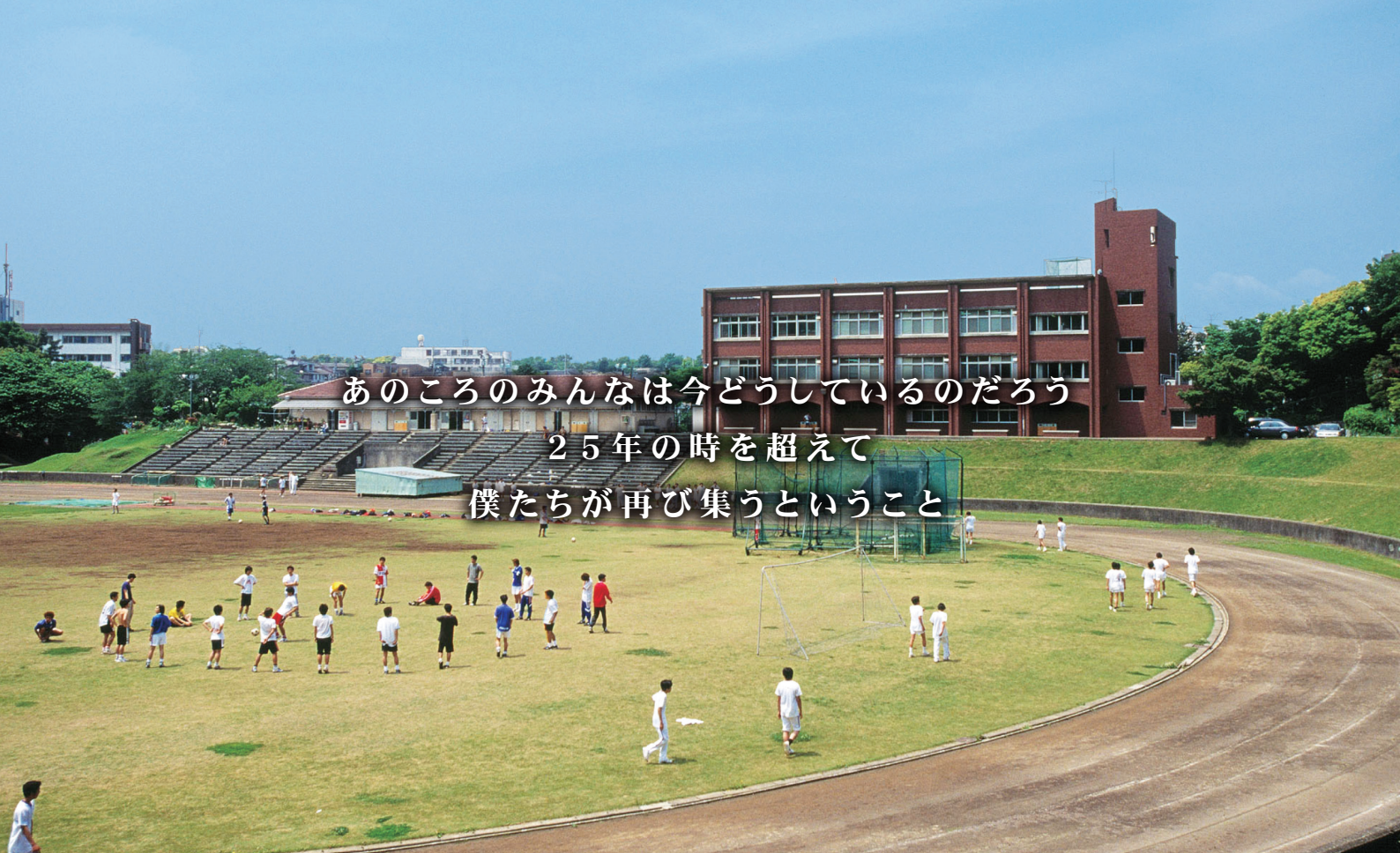




130三田会

慶應義塾130三田会卒業25年記念事業のご案内事業趣意書

<http://www.130mitakai.com>



あのことろのみんなは今どうしているのだろう
25年の時を超えて
僕たちが再び集うということ

ツナゲヨウミライ

130僕たちから君たちへ



25年を隔てた後輩達のために
そして
変わりゆく明日も変わらない僕たちでいるために

✕ ご挨拶



慶應義塾長

清 家 篤

1989年(130年)三田会の皆様へ

1989年(130年)三田会の皆様、卒業25年目の年をお迎えになられましたこと、誠にありがとうございます。1989年3月23日、日吉の丘において卒業式が行われ、そのとき卒業25年を迎えた先輩方が皆様の門出を祝ってくださいました。あれから25年、今度は皆様が卒業生を激励し、新塾員にお迎えいただきたいと思っています。

皆様はこの卒業25年目の節目にあたり、記念事業実行委員会を組織され、大同窓会をはじめ種々の記念事業を催されるだけでなく、家計が急変された塾生への「奨学金」の募金活動も進めてくださると伺っています。慶應義塾を代表して心より御礼申し上げます。こうした奨学金は塾生にとって経済的な支援となるばかりではなく、先輩の塾員が後輩の塾生を思う心がこもっているだけに、それを受ける塾生にとって大きな心の励みとなります。

言うまでもなく大学にとって何よりも大切なステークホルダーは学生です。とくに大切なのは、学生のこれからの長い人生にとってよりよい教育とはなにかということです。そのために大学がなすべき最良のことは、大学に学ぶ学生の本分である学問をしっかりと行って、学生に自分の頭で考える力を養ってもらうということ

です。とくに学問の大切さを繰り返し強調された福澤先生によってつくられた慶應義塾にあっては、学問というものを持つ意味はなににも増して大切なものです。

そのような慶應義塾の教育が成功したかどうかは、言うまでもなく義塾に学び社会で活躍される皆様、塾員からの評価にかかっていると思います。その意味で卒業25年目の働き盛りの忙しい皆様が全国各地から後輩の門出を祝うために日吉の山にお運びいただくのは、皆さんが慶應に学んでよかったと思ってくださっているからにほかなりません。

本当に有り難いことだと先達に感謝しなければなりません。そして現在の塾生もまたそう思ってくれるようより良き学塾としなければならないと改めて思います。

卒業25年記念事業を通じて、会員相互の旧交を温められ、さらに交友の輪が広がることを祈念致します。そしてあらためて皆様が慶應義塾社中として、慶應義塾の未来に向けた希望を共有され、その歩みに御参画いただくことを願っています。来年の3月に、日吉の丘でお会いできますことを楽しみにしつつ、皆様の御多幸御健勝、そしてますますの御活躍をお祈り申し上げます。



慶應義塾

130三田会卒業25年記念
事業実行委員会
実行委員長

峰 岸 克 行

ツナゲヨウミライ～130僕たちから君たちへ～

早いもので我々は、2014年に大学卒業25周年を迎えることとなります。皆様におかれましては、現在様々なお立場でご活躍のこととお慶び申し上げます。

慶應義塾には、卒業25周年の塾員を卒業式に、卒業50周年の塾員を入学式にそれぞれ招待し、塾長主催の塾員招待会を催すという恒例行事がございます。即ち130三田会会員(1989年卒業者ならびにこの期に関係の深い方々で構成)の皆様は、来年3月24日(月)に予定されている卒業式に招待を受け、25年後輩である2014年(155)三田会となられる方達の門出をお祝いするという素晴らしい機会を得るのです。

そこで、この機会に際し、「ツナゲヨウミライ～130僕たちから君たちへ～」というスローガンを掲げ、様々なイベントや事業を企画準備していくことと致しました。

短くも、永くもあったこの25年の時間を踏まえて、同期の皆さんが旧交を深める、または、新たな出会いが生まれ、改めて同期の絆を深める有意義な場を提供できれば幸いと考えております。

在学当時、事ある度に故石川忠雄塾長から「これからは不透明な時代となるが、諸君はモダンでスマートの裏に剛毅な心を持った独立自尊の人となり、社会に貢献して欲しい」と訓示を頂きました。そして卒業後日本国はちょうどバブル崩壊、まさに不透明な時代に突入し、失われた20年と言われ、未だ政治、経済、社会

あらゆる面で極めて厳しく、難しい状況が続いております。福澤先生が封建社会からの時代の転換期にあって、「独立自尊」という新しい理念により近代日本を導かれたように、我々もそれぞれの立場で、気概を持って、時代変化に応じた新しい事物に挑戦していかなければならない、今、まさに正念場と言えと思います。

さて、卒業25年記念事業実行委員会におきましては、「我々に今何が出来るであろうか」と、長時間にわたり議論を重ねた結果、家計が急変した塾生を対象とする「奨学金」の募金活動を記念事業の一つとすることと致しました。我々にとりまして、将来の日本のリーダー育成支援は重要な使命であり、慶應義塾の伝統の継承「社中協力」を具現化する時です。どうか協力ください。

また、記念事業のもう一つの柱は、2014年3月23日(日)にホテルニューオータニにて開催を予定しております大同窓会です。一人でも多くの方に参加いただき、改めて慶應義塾社中を意識し、楽しく思い出に残る会とするべく企画・準備いたします。是非ともご予約ください。

同期の皆様、一致団結してこの記念事業を盛り上げてまいりましょう。どうぞご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

✂ 130三田会卒業25年記念事業概要

2014年3月24日(月)、130三田会は慶應義塾大学卒業式に招待されます。

慶應義塾では、毎年、卒業25年目の塾員を大学の卒業式に招待する伝統ある行事があります。

25年前の自分達を思い出し、希望に満ち溢れる後輩達の門出を祝福し、激励するこの行事は1953年(昭和28年)から続く塾の大切な行事です。

2014年3月24日、私たち130三田会会員は、慶應義塾より卒業式ならびに卒業式終了後の塾主催の塾員招待会に招かれます。

この記念すべき日を中心に、130三田会は以下の記念事業を展開します。



1 2014年3月23日(日)大同窓会を開催します。

私たち130三田会会員が一同に集まり、卒業25年をともに祝う大同窓会をホテルニューオータニで開催します。懐かしい笑顔、変わらぬ友情を確認し、楽しいひとときを過ごしましょう。例年は出席者が1,200名を越えるという盛大な会です。今後の詳細は130三田会ホームページ(<http://www.130mitakai.com>)などでもご案内させていただく予定となっています。一人でも多くの仲間が集まってもらえる会となりますよう、みなさまお誘い合わせの上、是非ご参加ください。

2 卒業25年記念行事として募金活動を行います。

卒業式に招待された代々の先輩方は「社中協力」の精神のもと、慶應義塾への恩返しとして記念の寄付を行ってきました。私たち130三田会も「ツナゲヨウミライ〜130僕たちから君たちへ〜」の活動テーマに沿い後輩たちへの支援を目的とした募金を行います。具体的には塾側とも相談の上、この数年急増している家計の急変等により学業の継続が困難になった塾生への奨学金の一部に使用していただくこととし、招待を受ける卒業式において塾長に目録の形で贈呈いたします。昨今、大変厳しい経済状況ではございますが、是非趣旨をご理解ご賛同賜り、無理のない範囲で募金活動へのご協力をいただきますようお願い申し上げます。なお、募金への御協力をいただいた方は特典として、大同窓会にて予定される福引抽選会に参加する権利が得られます。

3 名簿の整備を行います。

慶應義塾からの卒業式の招待、大同窓会などのご案内を確実に同期全員にお届けすることを目標に、塾から提供された名簿データの整備を行います。そして、ここで整備されたデータは改めて慶應義塾に戻されます。しかし、残念ながらことに現時点で未だ連絡先不明の方が1,000名以上いらっしゃいます。名簿データの登録・更新は130三田会ホームページ(<http://www.130mitakai.com>)の「名簿登録はこちらから」で受け付けておりますので、名簿登録への御協力をお願いいたします。



✕ 募金活動へのお願い

募金活動へのお願い～慶應義塾への寄付～

慶應義塾では毎年、卒業式に卒業後25年目の塾員が招待され、昭和28年より新卒業生の社会への門出を祝福する伝統ある行事として卒業25年塾員招待会が催されてきました。我々130三田会も2014年3月に卒業25年を迎え卒業式に招待されます。

毎年、代々の諸先輩方はこの卒業25年招待会を開催して下さった慶應義塾への恩返しとして記念の寄付を行ってこられました。

そこで私たち130三田会では慶應義塾とも協議を行い、今般の経済状況から家計の急変等による経済的困窮者に対する奨学金のニーズが拡大しており、申請者数は増加しているにもかかわらず資金不足により申請者全員に対して奨学金が給付できていないという説明を受け、家計急変・経済困窮の塾生に対する支援という形で寄付を行うことといたしました。



慶應義塾では「社中協力」の精神の下、数々の困難を塾員の支えによって乗り越えてまいりました。こうした先輩方の恩恵により私たちが充実した環境で学生生活を送れたことに感謝し、130三田会は記念事業のテーマでもある「ツナゲヨウミライ ～130僕たちから君たちへ～」に従って一人でも多くの塾生に私たちと同じ素晴らしい学生生活を送ってもらえるよう支援をすることが慶應義塾への大きな貢献と考えます。

卒業25年の年に25年前の自分たちに思いを馳せて一人でも多くの方々に募金活動へご賛同賜り協力をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

募金要領

目的

130三田会記念大学奨学金
(家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者の支援を目的とし、第2学年以上に在籍する学部生を対象とします。奨学金の内容、選考などに関しては「慶應義塾大学特別奨学金」に準じます。)

目標金額

2,000万円以上

募金単位

個人名義

一口10,000円(できたら、2口以上でお願いいたします。)
※3口以上募金いただいた方には、130三田会オリジナル
ピンバッジを進呈いたします。

法人名義

一口50,000円(できたら、2口以上でお願いいたします。)

募金方法

①クレジットカードでの募金

(ご利用いただけるクレジットカード)

VISA・MASTER・DC・NICOS・UFJ・MUFG

お支払回数は1回のみとなります

a) クレジットカードをご利用いただく場合は、次の130三田会ホームページの「募金活動へのご協力をお願い」をクリックし、同ページに設置されている「クレジットカードでの募金」からお手続きください。

130三田会ホームページ <http://www.130mitakai.com>

b) 手続きが終わりまると募金受付完了メールが、ご登録いただいているメールアドレス宛に送信されます。

②専用振込用紙を利用した金融機関でのお振込

a) 同封の130三田会卒業25年記念事業用振込用紙をご利用の場合は、お振込いただく金額、日付、塾員番号(趣意書送付時の宛名を書いた紙の中央部に書いてある9桁の番号)、お名前、ご住所をご記入いただき、募金金額をお振込ください。

※塾員番号については趣意書7ページ「卒業25年記念事業とは？」のQ&AのQ8をご参照ください。

b) 振込手数料は各自にてご負担いただきますよう、お願い申し上げます。

c) 法人名義でのお振込

お振込の際は、名義と一緒に塾員番号をご記入ください。またお手数ですが130三田会25年記念事業事務局宛にて、塾員番号を明記の上、メールにてご連絡をお願いいたします。

③専用振込用紙を利用しない金融機関でのお振込

a) 下記指定口座宛に、金融機関よりお振込ください。

《130三田会卒業25年記念事業用 口座》

銀行口座： 三菱東京UFJ銀行 本店 普通預金 1526454

口座名： 130年 三田会 卒業25年 募金口

(ヒャクサンジュウネンミタカイ ソウギョウジユウゴネンギンギョウ)

b) お振込の際、お振込人氏名と一緒に塾員番号をご入力ください。

c) 振込手数料は各自にてご負担いただきますよう、お願い申し上げます。

d) 法人名義でのお振込

お振込の際は、名義と一緒に塾員番号をご記入ください。またお手数ですが130三田会25年記念事業事務局宛に、塾員番号を明記の上、メールにてご連絡をお願いいたします。

〈領収証の発行ならびに寄付金控除に係る証明書(写)の送付〉

皆さまのご寄付は130三田会で一旦とりまとめて慶應義塾に入金いたします。ご寄付の領収証および文部科学省発行の寄付金控除に係る証明書(写)は、後日慶應義塾よりお礼状と一緒にお手元に送付されます。確定申告される場合は、こちらをご利用ください。なお、ATM等からお振込いただいた場合は、払込票を大切に保管しておいてください。

※確実に書類をお送りさせていただくためにも、最新のご連絡先を130三田会ホームページ「名簿登録はこちらから」にてご登録くださいますようお願い申し上げます。

130三田会ホームページ <http://www.130mitakai.com>

〈130三田会25年記念事業事務局 連絡先〉

ご不明な点、書類送付先のご相談等は130三田会25年記念事業事務局までお問い合わせください。

130三田会25年記念事業事務局 25th@130mitakai.com

✕ 130三田会大同窓会にあたって

130三田会の約6200名の皆さん、4半世紀前、我らが慶應は、野球・ラグビーが優勝するなど塾全体に一体感があり、盛り上がっていましたね。その時代を中心にいたのが我らのエース、そう志村亮君です。今回その志村君が大同窓会に向けて学生時代の思い出などをインタビューで答えてくれました。

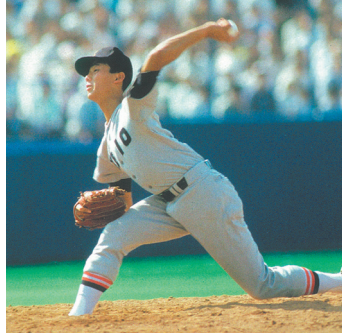
神宮球場を沸かせたエース 体育会野球部 志村亮君インタビュー

Q どんな学生時代でした？

A 野球はもちろんですが、勉強？あるいは、仲間との飲み会など充実した4年間でした。

Q 野球ではリーグ戦優勝や日本一など、盛り上がった時代でしたよね。

A 先輩や仲間、また慶應の同級生やOBの応援があったからだと思います。ラグビー部もモタを破って日本一。僕らの時代はけっこう大学自体に活気と一体感がありました。



Q 慶早戦の思い出は？

A 1年の春から経験させていただきました。応援はマイクを使い、学生席には試合前から酔い潰れている人もいて(笑)、高校野球の応援とは格段に違い、感激と驚きを感じました。

Q 1年の秋に優勝したんですね？

A 実は13年も優勝から遠ざかっていたことは知らなかったんですよ。この間、優勝を経験できなかった先輩たちの喜びぶりにはびっくりしました。提灯行列のあとの三田のステージで、多くの塾生とそして涙を流している人さえた先輩たちと「若き血」の大合唱をしたときに、「慶應の一員であるという一体感」を肌で感じる事ができました。この優勝は、57年ぶりの全勝無敗の完全優勝で、その後の全国大会(神宮大会)でも日本一になり、喜びに拍車がかかりました。個人的にもベストナインをいただき、大学野球で戦っていく自信が芽生えた時期でもありました。

Q 順風満帆のスタートでしたが、苦い思い出などありますか？

A 2年の春です。慶早戦で優勝まであと1アウトというところまでいきましたが、逆転サヨナラ負け。優勝準備委員会の方たちが提灯行列の準備をし、三田ではステージをつくり、準備万端整えていました。それなのに、全てが水の泡になってしまったのです。皆さんの苦労を台無しにし、声を嚷らして応援してくれていた方々の期待にもこたえられず、非常に心苦しい思いをしました。個人として勝った負けたで、嬉しい思い、悔しい思いは当然ですが、この頃から応援してくれている仲間存在を強く意識するようになりました。自分たちの試合結果で一喜一憂してくれる仲間がいるんだということに感謝し、みんなのために頑張らなくてはならないという気持ちが強くなりました。

Q 3年春には再び優勝ですね。

A そうです。再び優勝することができ、全国大学選手権大会でも日本一になりました。この時も提灯行列と「三田のステージ」を行って頂きました。前回の13年ぶりの優勝に比べたら盛り上がり欠けるのではと思っていたのですが、どうしてどうして、三田のステージは大いに盛り上がりました。1年の秋よりも、集まっていた塾生との距離が縮まったという実感がありました。応援してくれる仲間の気持ちを肌で感じ、それに応えたいという気持ちが強まって、そして得られた最高の結果にお互いが酔いしれることができたのだと確信しました。

Q 4年の時は？

A 春も秋も共に法政に優勝を奪われましたが、個人的には春の慶早戦から秋の立教戦までの5試合連続完封、さらに法政戦の途中までの53イニング連続無失点というリーグ記録を残すことができました。記録上に自分の名前が残ったのですが、この6試合にわたる長い間に失点につながるミスがひとつもなかったという「KEIO」の仲間の守りの堅さの証であり、実際は名誉あるチーム記録だと思っています。

Q プロに行ってほしいという声もありましたが？

A 多少なりとも楽しみにされていた方がいらっしゃいましたら、この場をお借りしてお詫び申し上げます。ですが今現在のはっきりしていることは、プロ野球に進まなかったことを一度も後悔したことはない、ということです。

Q 野球以外での思い出は？

A 「法律学科のMクラス」ちゃんと覚えていますよ！本当にクラスや体育会の仲間には助けられました(笑)

Q 現在のお仕事ではどんなことをしているのですか？

A 三井不動産に入社し、主にマンションの開発などに携わっています。再開発などは長く地道な仕事です。似合わないですが(笑)。

Q OBの繋がりや、社会人として塾の卒業生だと意識することは？

A 僕は、取って慶應出身だということを意識しないようにしてました。

Q どうしてですか？

A 僕の場合、慶應の志村だと相手がわかってしまうこともあり、その看板で仕事をするには抵抗がありました。若いころは、そういう事を意識しないで働こうと思っていました。

Q なるほど…志村君らしいですね。

A でも、25年経って、少し感じ方が変わってきたんですよ。仕事でも相手が慶應の出身だとわかるとなぜか安心すると言うか、学生時代の話をしなくても繋がりを感じるんです。

Q 今でも、塾と関わりがあるのですか？

A 最近まで、社会人野球に属するクラブチームで投げていて、現役野球部と練習試合をやったこともありました。また、野球部OB会の技術委員をやっていて、神宮や日吉グランドに行ってアドバイスすることもあるんです。それと、中学と高校の一貫校を一堂に集めた野球教室なんかもやるんですよ。卒業したあとも、なんだかんだいいながら慶應と関わっていますね(笑)。

Q 最後になりますが、大同窓会に向けて一言お願いします。

A 皆さんいい年のとり方をされて各業界で活躍されたり、業界の顔になっていらっしゃる方も数多く、喜ばしいことだと思っています。学生時代は野球以外の学校生活においても「楽しくていい大学」という印象は持っていました。卒業後、社会に出てからの仲間意識の強さ、先輩後輩の繋がりが強さ、そして実際に広く有力に広がるネットワークを実感する度に、つくづく「なんていい大学なんだろう」と思います。僕は実行委員ではないのですが、何度かミーティングにも参加させていただきました。そこで聞いたのですが、親御さんの突発的な経済的理由から学業の継続もままならない状況におちいってしまう可能性のある学生が、意外に多いと聞きました。正直、びっくりしています。これは、「何とかしなくてはいけない問題」で、「今回の130三田会25周年事業の活動の中で支援したい」という委員会の提案にすぐに賛同しました。

慶應に育む福澤先生の「社中協力」の精神が重要なのではないのでしょうか。卒業して25年経って、一般企業のサラリーマン生活、子供と触れ合う機会の中で「自分たちは先輩に助けをいただいていたんだな、慶應と繋がっているんだな」ということを、実感します。今度は自分たちが果たす番です。

卒業生の子息は同じ慶應に入っていることが多いですよ。慶應って、横のつながりもありますが、旧と新とが同じベクトルで繋がっているなとも感じます。僕らの世代で新しい世代の人たちへ何か助けになることができればと考えています。

志村亮君プロフィール



小学3年から野球を始める。中3で県大会3位。高校は桐蔭学園。甲子園出場2回。大学入学後は、リーグ優勝2回、日本一2回、ベストナイン3度、3、4年時には日米野球に出場。通算成績は31勝17敗、防御率1.82、奪三振295。5試合連続完封、53イニング連続無失点のリーグ記録は未だに破られていない。

✕ 卒業25年記念事業とは？

卒業して25年が経ったところで同期の仲間が集まり旧交を温めることは勿論、新たな友との出会いから仲間の絆を育て生涯にわたるネットワークを築くこと、またこれまでの人生で我々に様々なチャンスを与えてくださった慶應義塾への恩返しの気持ちを表すことを目的として130三田会は卒業25年にあわせて記念事業を行うことを計画しました。

1 この趣意書は誰を対象にし、送付先はどのように把握して出しているのですか？

- A** 対象の卒年を基準とし、慶應義塾塾員センターならびに紅梅会（厚生女子学院）よりご提供頂いた住所情報（塾員原簿）ならびに130三田会ホームページにご登録頂いた住所情報を元に送付させていただいております。
- 住所情報は直近のものを使用していますが、不明先も多いのが実情です。一人でも多くの同期の皆様に連絡を差し上げたく、届いていないという同期の方がいらっしゃいましたら、ホームページから登録情報を更新くださるようお伝えください。また今後の130三田会の活動における通信費節減のため、是非ホームページからメールアドレスの登録をお願いいたします。

2 130三田会ホームページから住所を更新すると、慶應義塾の住所情報も更新されるのですか？

- A** 2014年1月頃を目安に、130三田会ホームページの名簿更新情報を慶應義塾に提供する予定です。
- ただし慶應義塾からの各種案内を確実に受領するために、適宜慶應義塾の登録情報も更新ください。
- <http://www2.jukuin.keio.ac.jp/reg.html>
- 「住所変更・改姓・情報開示不可届」
- メール、慶應オンライン、FAX、郵送の各種手段が用意されています。
- 紅梅会の方はTEL・FAX:03(3341)8116
- 事務局在室時間 月・木曜日13時～17時 お問い合わせください。

3 「130三田会」はどのような会で、メンバーは誰ですか？

- A** 130三田会の「130」とは慶應義塾創立以来130回目の卒業生という意味で、1989年（平成元年）3月に慶應義塾大学を卒業、もしくは1989年（平成元年）9月に通信教育課程を卒業した、約6,200名が自動的に入会しています。加えて、厚生女子学院、また1989年に特選塾員になられた方、また様々な理由（留年、留学、病気など）により他年度の卒業となった方、他校へ移られた方などで、130三田会に「ご自分の代＝アイデンティティ」を感じてくださっている方で幅広くお声がけをしております。

4 「卒業年が違う友達がいるのですが…」

- A** さまざまな理由で卒業年が違ったり、あるいは諸般の事情で慶應義塾には入ったが卒業が他の学校だった、ということに拘わらず、「私たちは仲間だよね!」と実感できる同士が集う会こそが、130三田会の定義だと思っています。130三田会にアイデンティティを感じている方がいらしたら、是非ホームページからご登録ください。

5 どうして卒業25年目に卒業式（2014年（平成26年）3月24日（月））に招待されるのですか？

- A** 慶應義塾大学を卒業し25年目の塾員を卒業式典にご招待いただくのは、1953年（昭和28年）から続く慶應義塾の伝統行事です。社会人として充実した時期を迎えるこの卒業25年目の塾員が、若かりし頃の自分たちを追想し初心に帰るとともに、希望に満ちあふれて社会にはばたく後輩たちを祝福し激励するために、卒業式に参列します。ちなみに卒業50年目では入学式に招待されます。

6 卒業式に招待された130三田会は何をするのですか？

- A** 卒業式では例年、日吉記念館2階正面に「卒業25年を迎えた塾員席」が用意されます。私たち130三田会の代表が卒業生への「祝辞」を述べるとともに慶應義塾へ「寄付目録」を贈呈します。引き続き行われる卒業生の「年度三田会結成式」では、新たな塾員を迎える歓迎の意を表します。式典終了後、塾主催の招待会（懇親会）にも出席します。

7 なぜ卒業25年記念事業で募金を行うのですか？

- A** 卒業式に招待されたお礼の気持ちを込めて、慶應義塾の原点である「社中協力」のもと慶應義塾へ恩返しを行うためです。

8 塾員番号ってなんですか？

- A** 皆さんは学生時代、試験や書類申請のたびに書いた学籍番号を憶えていますか？
- その学籍番号の頭に「1」がついたもの（通信教育課程の方は「3」）が、卒業後使われている塾員番号です。
- 130三田会では、塾員番号を皆さまのユニークコードとして掌握しデータ管理に活用していきたいと思っています。この事業趣意書の宛名の紙に印字されている9桁の数字が、あなたの塾員番号です。どうぞ自分の塾員番号を控えておいてください。
- 紅梅会、アイデンティティ登録の方には130三田会用に事務局でユニークコードを発番します。

9 ホームページで名簿登録をしたかどうか忘れてしまったのですが。

- A** 何か項目を入力し忘れたような気がする、あるいはアドレスが変わった、などというときは何度でも登録してください。上書きされた最新のデータがあなたのデータとして保存されます。

10 今回の卒業25年記念事業実行委員会とは？

- A** 10年ごとに当番年となる連合三田会で最初の当番年だった1999年（平成11年）、2回目の当番年2009年（平成21年）大会でお手伝いいただいた在京同期を中心に、準備をすすめてまいりました。慶應義塾と連携しながら2012年より実行委員会を組織化し、運営しています。来たる5月18日（土）三田キャンパスにてキックオフ同窓会を行い、少しずつ輪を拡げようとしています。皆さまのご協力、ご参加、よろしくお願いいたします。

11 実行委員会への参加お申し出や事務局に連絡したい場合は？

- A** 活動はすべて実行委員がボランティアで行っています。本業や家庭への影響を考慮し、基本的にEメールをお使いください。
- アドレスは 25th@130mitakai.com です。いただきましたメールには担当委員より折り返しご連絡させていただきます。



2014年春 僕たちはもう一度つながる



130三田会 活動スケジュール

- 2013年5月18日(土) 卒業25年記念事業キックオフ同窓会@三田キャンパス
 2014年3月23日(日) 卒業25年大同窓会@ホテルニューオータニ
 2014年3月24日(月) 慶應義塾大学卒業式・塾員招待会@日吉キャンパス

130三田会25年記念事業事務局 ▶ 25th@130mitakai.com

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル南館9階
 株式会社江ノ島マリンコーポレーション内「慶應卒業25年同窓会事務局」

130三田会ホームページ(PC) ▶ <http://www.130mitakai.com>

※名簿登録はホームページ（PC対応）からお願いします。
 募金・イベントの活動状況、出欠連絡、事務局へのお問合せも
 ホームページから可能です。